

より良い子育て環境づくりで優れた成果をあげている団体・個人 15 組と  
子育てをしながら人文・社会科学分野の研究を行う女性研究者 10 名を選出

## 文部科学省・厚生労働省後援 住友生命社会貢献事業 第 8 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者決定

- 未来大賞・文部科学大臣賞 1 組  
特定非営利活動法人 子どもデザイン教室(大阪府大阪市)  
～デザイン教育を通じて育むのは、子どもたちの「自立心」～
- 未来大賞・厚生労働大臣賞 1 組  
特定非営利活動法人 だいじょうぶ(栃木県日光市)  
～さまざまな困難を抱えた親子の社会的自立を目指して～
- 未来賞 10 組
- 震災復興応援特別賞 3 組
- スミセイ女性研究者奨励賞 10 名 ※受賞者一覧は次項をご参照ください

住友生命保険相互会社(社長 橋本雅博)は、平成 19 年からよりよい子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

この一環として、より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中でもある女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の 2 つの公募事業を実施しており、これまで過去 7 回の表彰を通じて、65 組の子育て支援活動と、71 名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

第 8 回目である本年度は、子育て支援に資する諸活動を行っている個人・団体 216 組、育児を行いながら研究を続けている女性研究者 145 名の応募の中から、以下のとおり 15 組の子育て支援活動と、10 名の女性研究者への支援を決定いたしました。

また、同受賞者への表彰式を、平成 27 年 2 月 23 日(月)にホテルニューオータニ東京にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、次頁の通りです。

## <第8回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者一覧>

### ◎子育て支援活動の表彰 15組

#### 【未来大賞・文部科学大臣賞】

- 特定非営利活動法人 子どもデザイン教室(大阪府大阪市)

#### 【未来大賞・厚生労働大臣賞】

- 特定非営利活動法人 だいじょうぶ(栃木県日光市)

#### 【未来賞】

- 一杯の味噌汁プロジェクト (秋田県秋田市)
- エンゼルママ西 (大阪府堺市)
- 一般社団法人 大分県助産師会 (大分県大分市)
- 特定非営利活動法人 キッズNPO (広島県廿日市市)
- 静岡学習支援ネットワーク (静岡県静岡市)
- 練馬ママ漫画ルーム「よんこま」(東京都練馬区)
- 特定非営利活動法人 備前プレーパークの会 (岡山県備前市)
- 北光クラブ (栃木県鹿沼市)
- 特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター (三重県鈴鹿市)
- 特定非営利活動法人 ままとーん (茨城県つくば市)

#### 【震災復興応援特別賞】

- 特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット (福島県東白川郡鮫川村)
- いわて助産師による復興支援まんまる (岩手県花巻市)
- 特定非営利活動法人 にじいろクレヨン (宮城県石巻市)

### ◎女性研究者への支援 10名

#### 【スミセイ女性研究者奨励賞】

- 稲垣 綾子さん (神奈川県横浜市)
- 稲見 直子さん (大阪府吹田市)
- 加野 泉さん (愛知県名古屋市)
- 神谷 貴子さん (愛知県名古屋市)
- 下谷内 奈緒さん (東京都杉並区)
- 中山 良子さん (京都府京都市)
- 橋本 磨美さん (茨城県つくば市)
- 前原 直子さん (沖縄県中頭郡中城村)
- 松井 生子さん (東京都中央区)
- 宮地 歌織さん (福岡県柳川市)

## ◎子育て支援活動の表彰 15組

### 未来大賞 2組

#### 文部科学大臣賞

#### ■特定非営利活動法人 <sup>こ</sup>子どもデザイン<sup>きょうしつ</sup>教室(大阪府大阪市)

～デザイン教育を通じて育むのは、子どもたちの「自立心」～

悪条件の就労機会しか得られず、貧困のスパイラルに陥ってしまうような状況を改善すべく、デザインを学ぶことによって子どもたちに、自らの将来を企画・設計できる力、自立心を育んでもらう場として「子どもデザイン教室」を開設。「アート教室ではなく、あくまでもデザイン教室である」を活動の基本的なスタンスとして活動を展開している。アートは自己表現の手段であるため何を描くのも何をつくるのも本人の自由だが、デザインは人に伝える手段であり、そこには相手が存在する。それは、相手に対して何をどのように伝えていくかを常に意識する必要があり、デザインを通じて子どもたちは、相手の立場に立って考える姿勢や、効果的に伝えるために必要な物事の組み立て方など、社会生活を送る上で求められるコミュニケーション力を広く学んで身につけることができる点に着目している。



また、子どもたちが考案・作成したオリジナルのキャラクターやデザインを企業に販売し活用してもらう取り組みも行っており、教室に通う子どもたちの学資支援も行っている。

#### 厚生労働大臣賞

#### ■特定非営利活動法人 だいじょうぶ(栃木県日光市)

～さまざまな困難を抱えた親子の社会的自立を目指して～

全国有数の観光地である東照宮や鬼怒川温泉などを擁する日光市で活動を展開。他県からの転入者も多い一方で、就労環境が不安定であることに加えて仕事が夜間に及ぶこともあるため、育児との両立が難しい状況に置かれている家庭も多く、育児放棄や児童虐待のリスクが高いことが地域の課題となっている。そうした課題を地域の力で解決していこうと、子どもたちを家や学校まで迎えに行き、洗濯・食事・入浴といった必要な養育を補い、夜には家まで送り届けるショートステイ事業を中心にしている。子どもたちに対して居場所を提供するとともに、子育て力や生活力を高めるためのさまざまなアドバイスを行うことで、親自身の意識変革も促し、子どもだけでも親だけでもなく、双方を支援することによって家庭全体の生活を向上させていくことを目指している。



※写真提供: 下野新聞社

## 未来賞 10組

### いっぱい みそしる ■一杯の味噌汁プロジェクト(秋田県秋田市)

～味噌汁づくりを通じて、子どもたちの心と体を健やかに育みたい～

恵まれた環境の中で生まれ育った今の子どもたちは、東日本大震災のような大きな困難に直面したときに、強くたくましく生きていくことができるのだろうか。そうした疑問と不安から活動を開始。秋田県は米どころであると同時に味噌どころでもあり、また美味しい野菜もたくさん採れる、そんな場所だからこそ「味噌汁」に着目。日本の伝統食である味噌汁づくりを通じて、子どもたちの心と体を健やかに育むことを目指すプロジェクトとして、子どもたちには、食材の調達や調理といった生きるために必要な力を身につけてもらい、若いお母さんたちには味噌汁を通して食を、またその食材を生む秋田という地域の良さを見直してもらうために、さまざまな教室・イベントを開催している。



### にし ■エンゼルママ西(大阪府堺市)

～自分たちも楽しみながら、地域の子育てサークルをサポート

堺市が主催する子育てアドバイザー講座に参加し、そこで学んだことを地域の中で活かそうと、その受講生が中心となって活動を立ち上げ。「メンバーそれぞれができるときにできることをする」という考えのもと子育て支援活動を掲げ、活動を10年以上継続している。

活動内容が評価され、市や保健センターから、赤ちゃん広場開催時や4ヶ月検診時、子育て講演会の際の保育なども委託を受けており、地域の社会福祉協議会とも密接かつ良好な関係を築いている。市内の複数の子育てサークルへ本活動で培ったノウハウやプログラム提供を行う側方支援活動も実施している。



### おおいたけんじょさんしかい ■一般社団法人 大分県助産師会(大分県大分市)

～産前産後だけにとどまらず、女性の“一生”に寄り添った支援活動～

大分県は助産師の活動が盛んな土地だが、日本助産師会の呼び掛けに応じて1999年に「子育て・女性健康支援センター」を設置したのがきっかけで、助産師会として組織立って活動を開始。当時から続く「赤ちゃん&おっぱい電話相談」は、約80名の助産師が持ち回りで担当している。年中無休の相談ダイヤルは全国的に珍しいこともあって、大分県外からも毎日多くの相談が寄せられている。

また、乳幼児健診などに訪れたお母さんたちを対象にアンケートを実施し、そこで拾い上げた声をもとに活動の幅を段々と広げ、現在は命の大切さを広く伝えるための出張講座なども精力的に行っている。



## ■特定非営利活動法人 キッズ NPO(広島県廿日市市)

～多様な保育サービスを地元企業に提供し、ワーク・ライフ・バランスのモデルづくりに取り組む～

待機児童の問題解消を目的に認可外保育園を開園するところから活動をスタート。しかし、夜間保育や病児保育などサービスを充実させていく中で、そこに預けられる子どもたちの負担はかえって大きくなっているのではないかとというジレンマを抱くようになり、市内の企業に対してワーク・ライフ・バランスの推進を促す活動を開始。企業に対するワーク・ライフ・バランスの働きかけは、子育てを巡る問題の根本的な解決を図る有効な取り組みであると考え、仕事と育児の両立を図りやすい労働環境を整えるために、保育料の割引を始めとしたさまざまなサービスを提供している。とりわけ今後は行政の協力も得ながら、この活動を広く県内に普及させていくことを目標としている。



しずおかがくしゅうし えん

## ■静岡学習支援ネットワーク(静岡県静岡市)

～現役大学生による、社会的困難を抱える子どもたちのための、学習支援と居場所支援～

学習の意志を持ちながらも、家庭の事情により塾に通うことができない、または不登校になっている子どもの学習支援活動を現役の大学生だけで運営。スタッフは先生というより、お兄さん・お姉さんのような存在であり、また身近なお手本として、子どもたちに好影響をもたらしている。こうした斜めの関係性は、学習面だけでなく精神面のサポートを行う上でも非常に有効な手段だと捉えている。

活動歴は短いものの、卒業生には高校進学を果たしている子どもたちもおり、将来的には、そうした卒業生たちが静岡県内の大学へと進み、今度はスタッフとして次の世代の子どもたちの学習支援に携わるといった好循環が生まれることを期待し、活動を行っている。



ねりま まんが

## ■練馬ママ漫画ルーム「よんこま」(東京都練馬区)

～日本初・ママだけの「赤ちゃん連れで漫画を読める自由な居場所」～

母親支援を主な目的として、漫画を読みながら気兼ねなく過ごすことのできる、赤ちゃん連れのママたちのための居場所を提供。走り回れる子どもたちまでを対象としている子育て広場では、赤ちゃんを床に下ろすことを躊躇してしまうことが少なくないという代表自身の経験から、赤ちゃんの安全とママの安心のために、ハイハイ前の赤ちゃんとそのママに利用者を限定している。

漫画ルーム開設にあたって、否定的な声もあったものの、ニーズは必ずあると信じて最初の一步を踏み出し、現在では翌月まで予約が取れないほどの人気を博している。



## ■特定非営利活動法人 <sup>びぜん</sup>備前<sup>かい</sup>プレーパークの会(岡山県備前市)

～豊かな自然に囲まれた「森の冒険ひみつ基地」で、伸び伸びとした子育てを応援～

瀬戸内海を間近に臨む自然豊かな里山の中にある、子どもたちのためのプレーパーク「森の冒険ひみつ基地」をスタート。有料の参加型プログラムも用意しているが、基本的には通常の公園と同じように、無償で設置された手作りの遊具などを使って自由に遊ぶことができる。参加する大人たちも、子どもに多少のケガやケンカは付き物だということを理解しており、元気に遊び回る子どもたちの様子を暖かく見守っている。今後は、プレーパークに併設する形で親子の受け入れや一時預かりなどができる施設をつくり、外遊びとの複合的な活動にも取り組んでいきたいとしている。



## ■<sup>ほっこう</sup>北光クラブ(栃木県鹿沼市)

～大人も子どもも、みんなが学び合うことで豊かな地域社会をつくることを目指して～

週休 2 日制の導入に伴い、地域の教育力を子どもたちの豊かな体験の機会として提供すべく活動を開始。この地域には元々、スクールアシスタントや北光家庭クラブといった教育支援のための土台となる組織があり、学校にも多くの生涯学習サークルが活動。そうした関係者・団体をつなぎ効果的な連携を行うことを目的に活動を行い、コーディネーターとしての役割を担っている。

また、授業の支援のために、専門的なスキルを持った外部講師を招くなど、子どもたちの学習環境を整えるためのさまざまな取り組みを展開している。



## ■特定非営利活動法人 マザーズライフサポーター(三重県鈴鹿市)

～当事者だからこそわかること・できること ママたちの「あればいいな」を形に～

三重県鈴鹿市は、他県からの転入者が多く地域との縁が薄い地域。育児の支援が得にくく、働く意欲があっても専業主婦にならざるを得ない女性が多い現状を受け、子育て真っ最中のママたちが中心となって活動を立ち上げ。

現在は、一次産業を中心とした事業者の仕事を受託し、その参加者を募る「コラボワーク」の推進に特に力を入れている。一次産業は地域に根付いているため、他県から来た方と地域との結びつきを生み出すためには適していることに着目。母親同士がチームを組み、チーム内で育児と仕事をシェアすることで柔軟な働き方を可能にするこの「コラボワーク」という仕組みを使って、これまで働きたくても働くことのできなかった母親たちの就労機会の創出、そして育児と仕事を両立できる子育て環境の実現を目指している。



## ■特定非営利活動法人 ままとーん(茨城県つくば市)

～赤ちゃん和生徒たちがふれあう「いのちの出前授業」～

流出入人口が多く、地域内のつながりがどうしても希薄になりがちなつくば市で、子育て情報誌の発行や、母親同士の交流の場である「つどいの広場」の運営など、地域の課題と時代のニーズに合わせた子育て支援活動を15年間にわたって行っている。

活動を続ける中で学校現場から相談を受けたことをきっかけに、「いのちの出前授業」をスタート。子育ての真っ只中にあるお父さんやお母さんから妊娠・出産・育児にまつわる貴重な話を聞き、実際に赤ちゃん和ふれあうことで、子どもたちに子育ての苦勞や喜び、そして命の重さや大切さといった、机上ではなかなか学習できない大切なことを学んでもらうことを目的に展開している。



## ■震災復興応援特別賞 3組

### ■特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット(福島県東白川郡鮫川村)

～食・農・遊びの共同体験を通じて、子どもたちをたくましく育む自然学校を運営～

自然豊かな阿武隈山系・鮫川村にて、昔ながらの食や農などを共同体験する自然学校を約20年にわたって運営。当初は、山村留学の受け入れを目的にした活動を行っていたが、現在は自然体験を中心とした活動へと軸足を移し、とりわけ震災による原発事故以降は、被災した福島県の子どもたちを積極的に迎え入れ、彼らにとって貴重な外遊びの場を提供する活動に力を注いでいる。

参加した子どもたちは、想いを吐き出すかのように、日が暮れるまで夢中になって屋外を走り回っており、自然の中での共同生活・共同体験の意義は、そうした子どもたちの本来持っている強さやたくましさを引き出してくれるところにあるとしている。



### ■いわて助産師による復興支援まんまる(岩手県花巻市)

～東日本大震災をきっかけとして始まった、助産師による訪問型子育てサロン～

助産師が中心となって運営する子育てサロンを開設。専門的な知識を持った助産師が運営を行っており、産院での限られた診療時間の中では相談できなかったことや、わざわざ病院を受診するほどでもないちょっとした悩みを、気軽にゆっくりと相談・解決することができる。

ただでさえ苦勞の多い育児に、仮設住宅での生活など被災地特有の苦勞が加わり、大きなストレスを抱えながら子育てをしているお母さんたちが少なくなく、出産から子育てまで、お母さんたちを“点”ではなく“線”で支えることができる助産師の強みを活かし、現在は岩手県内の7つの地域において、メンバーが訪問する形で子育てサロンを開催している。



## ■特定非営利活動法人 にじいろクレヨン(宮城県石巻市)

～大切なのは継続性！地域に根ざした子どもたちの心のケアを目的としたレクリエーション活動～

代表は石巻市内で絵画教室や剣道教室を営んでいたが、自身も被災。避難所生活を送る中で子どもたちに元の笑顔を取り戻してあげたいと思い、避難所の一角でさまざまなレクリエーション活動を行うようになったのが設立のきっかけ。子どもたちに楽しみを提供する支援活動は震災直後から多数あったが、その多くは単発的であり、子どもたちのニーズや変化を把握できないという課題を抱えていた。そこで継続性や地域の力を重視し、スタッフも地元在住の人間を中心に据え、曜日ごとに決まった仮設住宅・集会所を訪れて活動を展開しており、今後も長期的な視点で活動を続けていこうとしている。



## ◎女性研究者への支援 10名

### スミセイ女性研究者奨励賞 10名

いながき あやこ  
■稲垣 綾子:上智大学 総合人間科学部 心理学科

<研究テーマ>

思春期・青年期の自閉症スペクトラム児をもつ親を対象にしたペアレントグループ・プログラムの作成と効果研究

いなみ なおこ  
■稲見 直子:関西大学 社会学部 非常勤講師

<研究テーマ>

コレクティブハウジングの持続可能性に関する研究 ―支援者の役割に着目して―

かの いずみ  
■加野 泉:日本福祉大学 非常勤講師

<研究テーマ>

アメリカ「ヘッドスタート」プログラムにおける家族支援 ―再構築されるジェンダー役割―

かみや たかこ  
■神谷 貴子:名古屋大学大学院 文学研究科 人文学専攻 西洋史専門

<研究テーマ>

中世後期都市フリブールにおける市民層

しもやち なお  
■下谷内 奈緒:東京大学大学院 総合文化研究科 国際社会科学専攻

<研究テーマ>

移行期正義における刑事裁判実施の政治過程の解明

なかやま よしこ  
■中山 良子:大阪大学大学院 文学研究科

<研究テーマ>

若者の「純潔」とメディアの戦後史

はしもと まろみ  
■橋本 磨美:筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

<研究テーマ>

アメリカ連邦政府の図書館政策の変遷

―1956年図書館サービス法から2010年図書館サービス・技術法を対象に―

まえはら なおこ  
■前原 直子:沖縄国際大学および沖縄キリスト教学院大学 非常勤講師

<研究テーマ>

沖縄本島一地域における高齢者の「老い」への適応・不適応に関する人類学的考察  
―多文化共生の視点―

まつい なるこ  
■松井 生子:昭和薬科大学 非常勤講師

<研究テーマ>

仏教儀礼が醸成する民族の共生

―在カンボジア・ベトナム人の宗教的実践と民族間関係に関する人類学的研究―

みやち かおり  
■宮地 歌織:佐賀大学 男女共同参画推進室 特任助教

<研究テーマ>

ケニア農村部における妊産婦ならびに子育てに関する人類学的研究

## <住友生命社会貢献事業『未来を強くする子育てプロジェクト』概要>

主催： 住友生命保険相互会社  
後援： 文部科学省、厚生労働省  
審査員： 選考委員長 汐見 稔幸氏（白梅学園大学学長・東京大学名誉教授）  
選考委員 おおひなた まさみ 大日向 雅美氏（恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授）  
おくやま ちづこ 奥山 千鶴子氏（特定非営利活動法人びーのびーの理事長）  
よねだ さちこ 米田 佐知子氏（子どもの未来サポートオフィス代表）  
ほんじょう まさや 本城 正哉（住友生命保険相互会社 取締役専務執行役員）

### 【子育て支援活動の表彰】

募集内容： より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。

応募要件： ◆子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること。  
◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。  
◆活動の公表を了承していただける個人・団体であること。  
◆日本国内で活動している個人・団体であること。  
◆東日本大震災の被災者の支援、復興のために子育て支援活動を行う個人・団体であること。

表彰： ◆文部科学大臣賞(未来大賞受賞者の1組に授与)／表彰状  
◆厚生労働大臣賞(未来大賞受賞者の1組に授与)／表彰状  
◆未来大賞 2組 /表彰状、副賞 100万円  
◆未来賞 10組 /表彰状、副賞 50万円  
◆震災復興応援特別賞 3組 /表彰状、副賞 50万円

応募数： 計 216 の団体ならびに個人

### 【女性研究者への支援】

募集内容： 育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

応募要件： ◆人文・社会科学分野の領域で、有意義な研究テーマを持っていること。  
◆原則として、応募時点で未就学児(小学校就学前の幼児)の育児を行っていること。  
◆原則として、修士課程資格取得者または、博士課程在籍・資格取得者であること。  
◆2名以上の推薦者がいること(うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所等の指導教官または所属長であることが必須)。  
◆現在、大学・研究所等に在籍しているか、その意向があること。  
◆支援を受ける年度に、他の顕彰制度、助成制度で個人を対象とした研究助成を受けていないこと(科研費・育児休業給付などは支給していても応募いただけます)。  
※この事業では、過去の実績ではなく、子育てをしながら研究者として成長していく方を支援したいと考えています。そのため、研究内容のみで判断することはありません。  
※国籍は問いませんが、応募資料等への記載は日本語に限ります。

表彰： ◆スミセイ女性研究者奨励賞 10名 /表彰状、助成金1年間100万円(上限)を最大2年間支給。

※支給期間は平成27年4月から平成29年3月までの2年間

応募数： 計 145名